



輝く 恵那人

236人目



大井町野越

古根 ^{ひなた}陽向さん (18歳)

□プロフィール

恵那高等学校理数科の3年生。新聞文芸部の部長を務め、今年の全国高等学校総合文化祭では新聞部門の生徒委員長も務めた。趣味は読書で岐阜県出身の推理作家、中山七里さんの著書がお気に入り。



▲「総文祭」閉会式であいさつをする古根さん

「文化部のインターハイ」と呼ばれる全国の高校生による芸術文化活動の祭典、全国高等学校総合文化祭（総文祭）が7月31日から8月5日にかけて県内全域で開催された。8月1日から3日まで行われた新聞部門は、恵那高等学校が事務局として部門運営を行い、新聞部門委員会生徒委員長を務めたのが古根陽向さんだ。

古根さんは、恵那東中学校を卒業後、研究をしたとSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されている恵那高等学校理数科に進学。1年生から薬のクラブセルに関する研究を行ってきた。部活動では、小説や新聞の制作を行いたいと新聞文芸部に所属し、部長を務めた。

総文祭の開催に向けて、昨年行われた「2023 かごしま総文」の新聞部門に参加するなど、事務局としての準備を行ってきた古根さん。特に初日に行われた生徒交流会は、事務局の生徒が運営を担

う部分が多く、準備に時間を要した。他の部員と協力しながら、発表するプレゼンテーションやクイズの準備を行うなど忙しい日々。それに加えて、生徒委員長としてのあいさつの練習を自宅で行うなど、大会に向けて尽力してきた。当日は、生徒委員長として壇上であいさつをしたり、取材活動を引率したりするなどして、新聞部門を成功に導いた。

古根さんは、「今まで人前に立つて話す機会がなかったけど、委員長になったことで話すことに慣れ、成長することができたと思う。生徒委員長をやったよかった」と振り返る。この総文祭をもって新聞文芸部を引退し、今後は大学進学のため、受験勉強に励んでいく。

大学では理数科での学びをさらに深めたいと、「理系の学部で研究を続けていきたい」と話す古根さんは、高校生活での経験を生かしながら、明るい未来に向かって成長し続けていく。

成長できた「総文祭」 新聞部門生徒委員長として



その他の話題もウェブサイトに掲載

News & Topics まちのわだい

7/10

ねんりんピック2025
実行委員会の設立



第37回全国健康福祉祭ぎふ大会の市実行委員会が設立されました。同大会は令和3年に開催する予定でしたが、コロナ禍で中止。令和7年の開催に向け、改めてスタートを切りました。大会は、令和7年10月に開催予定で、本年度はリハーサル大会を行う予定です。

6/9

消防技術を上向きに
高めるために
士気を



恵那スケート場で第20回恵那市消防協会消防操法大会が開催され、市内の12隊が小型ポンプ操法を行いました。操作技術と放水タイムを競い、審査の結果、中野方分団が見事優勝。中野方分団は、10月27日に行われる岐阜県消防操法大会に市を代表して出場します。

7/20-21

科学を体験
こどもフェスタ



恵那文化センターでこどもフェスタ2024が開催され、約1,100人が楽しみながら科学の不思議を体験しました。会場には、工作や科学体験、サイエンスショーなど30以上のブースが設けられ、子どもたちはアドバイスを受けながら、ものづくりや実験を楽しみました。

7/19-20

明智ぎおん祭で疫病退散を
願う



明智町で明智ぎおん祭が開催されました。この祭りは、疫病封じの神様として信仰されている津島神社の祭り。疫病退散を願って子どもたちが飾ったあんどんと、100本以上のちょうちんのトンネルが、各所で焼かれたねぎまの煙と共に夜の町を彩りました。

7/27

恵那峡の夜空を彩る
水上花火



第51回恵那納涼水上花火大会が恵那峡公園一帯で行われました。今年度は大井ダム100周年を記念して、特別花火を打ち上げるためのクラウドファンディングを実施。約160万円が集まり、特大ナイアガラやスターマインが観客を魅了しました。

7/26

ごみ処理広域化に向けた
委員会の設置



本市と中津川市が計画している広域ごみ処理施設の建設候補地を検討するための委員会が設立され、第1回目の会議が開催されました。今後、委員会では施設整備の基本構想を策定し、候補地の評価基準を定め、令和7年9月ごろに建設候補地案を決定する予定です。